

# 2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

城北中学校区	校番 63	福山市立明王台小学校
最終更新日	2025年(令和7年)4月10日	

## I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

## II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けて PDCA サイクルに則り実践する。	児童生徒の現状 全国学力調査の結果、福山市の平均正答率を上回ることができたものの、正答率40%未満の生徒の割合は少なくない。また、不登校児童生徒も少なからずいる。	育成する力 資質・能力 主体的に判断する力・課題を発見し解決する力・地域社会と協働して貢献する力	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) ・自ら考え、主体的に判断し、自律した行動ができる児童生徒 ・豊かな心を持ち、お互いを尊重し、人を大切にする児童生徒
		中学校区として統一した取組等	・CS をベースにした校区合同研修と合意形成を意識した授業研究及び教科等部会の取組 ・DC 教育を基に、ICT を活用した個別最適化した授業実践及び協議・交流の取組 ・家庭での効率的な学習計画の立て方・メディアとの付き合い方への取組 ・地域と協働した合同行事や乗り入れ授業、「総合的な学習の時間」交流会の取組

## III 自校

ミッション 夢をもち、目標に向かって前向きに努力することを通して、地域に貢献できる児童を育てる。	学校教育目標 自ら学び 豊かな心で たくましく生きるこどもの育成	育成する力 資質・能力	主体的に判断する力	課題を発見し解決する力	地域社会と協働して貢献する力
現状 〈児童生徒〉 ・全国学力・学習状況調査において、正答率40%未満の児童の割合が、国語14.8%、算数29.6%であった。 ・全国学力・学習状況調査、学びの伸びを把握する調査等では、問われていること意味理解が不十分な児童もいる。 ・指示されたことなどすることが分かっていることは、快く引き受けて取り組むことができる。自ら考えて行動することに課題がある。 〈授業〉 ・友達との意見交流を通して、自分の意見をもったり自他の意見を比べて考えたりする児童が増えた。 ・基礎的・基本的な学力の定着のための時間確保と繰り返し学習が不十分な単元もあった。	めざす子ども像 互いの考えを認め合い、比較・分類・関連付けたりしながら自己決定している。	めざす授業の姿 ○思考・表現を促す活動の充実 ・思考を深める発問の工夫 ・話し合い活動の充実 ○基礎的・基本的な学力の定着 ・当該学年の学習内容について付けるべき力を明確にし、目的を児童と共有した反復練習などを行う。	身の回りの課題を設定し、友達と協力したり、目的や意図に応じて必要な情報を整理したりしてよりよい解決に向けて考えている。	地域の人・もの・ことに関わる活動を通して、地域のおよさを伝えたり、地域の一員として自ら関わったりしている。	
		研究	テーマ じっくり考え、自分の考えを表現できる児童の育成 ～「できる」「分かる」「考えてよかった」という思いがもてる活動を通して～ 基礎的・基本的な学力の定着	内容等 問題解決型の授業研究の実践を年間を通して行う(プロジェクト活動型)	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立明王台小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上評価	達成評価
5	自ら考え学ぶ児童(主体性)の育成	★	継続	じっくり考え、自分の言葉で表現できる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアやグループで自分の考えを自信をもって発表する場の設定をし、学びを広げ深める授業づくりを進める。</li> <li>基礎的・基本的な学力の定着のために、時間確保と反復練習も行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した」児童を85%以上にする。(児童アンケート)</li> <li>各学力調査において、40%未満の児童の割合を5%減らす。</li> </ul>							
				見直し	自分たちで考え、進んで生活をよくしていこうとする児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に委員会や係活動に取り組むことを通して、自己有用感を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会や係活動において、学校や学級をよくするために進んで活動出来た児童を80%以上にする。(児童アンケート)</li> </ul>						
		★	新規	自ら進んで健康的な生活をしようとする児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>年3回、『メディアコントロールウィーク』を設け、児童が自分の生活習慣を振り返るとともに保護者啓発の機会をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアコントロールウィーク中は、「平日のメディア使用時間を2時間以内にする」児童を80%以上にする。</li> </ul>							
1	元気・笑顔で学び続ける教職員		見直し	教職員が元気に笑顔で勤務できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的に時間を確保し、学年をこえた教材研究を協働的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業づくりを行う時間が確保されていると感じる教員の割合を85%以上にする。</li> </ul>							

1	地域とともにある学校づくり	★	見直し	<p>地域の人やボランティアの人に感謝の気持ちをもって行動することができる児童の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童会を中心に年間を通してあいさつを啓発する取り組みを実施し、地域の方との繋がりを作る。</li> <li>地域の人やボランティアの人と関わりながら学習を進め、地域とのかかわりを深める単元を計画・実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人に支えられていると感じる児童の割合を90%以上にす。 (児童アンケート)</li> <li>各学年、学期に1回以上地域と関わる学習を実施する。</li> </ul>													
---	---------------	---	-----	--	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。